

令和6年度 江戸川区立篠崎第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	光る子 ～人間性と想像力を豊かに、心身たくましく～	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○子供たちが明るく元気に学校生活を送れるように、自己肯定感を高め、認める・褒めることを基本とする教育を推進する学校 ○善悪を正しく判断して、思いやりをもって人と接し、困難にも諦めずに最後までやり抜くことができる児童 ○社会人、公務員としての自覚と認識をもち、指導力向上を図り、職務を遂行することができる教師
前年度までの本校の現状	成果 ・学校として取り組んでいる内容に関して、80%以上の保護者が、指導に対して効果があると肯定的に捉えている。	課題	・全国学力調査での都の平均正答率に迫れるような基礎学力の定着 ・児童の体力向上、教職員の学習指導力の向上 ・学習用タブレット端末の積極的かつ効果的な活用

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎	・各学期、「江戸川っ子study week!」を実施し、学習用タブレット端末を活用してミライシードの算数科を中心とした家庭学習に取り組ませる。また、タブレット端末は、算数科に限らず各教科で効果的に活用し、個別最適な学びの助けとする。	・各学級の90%以上の児童が、学習用タブレット端末を活用した家庭学習に取り組むことができる。 ・学校でのタブレット端末の活用を、第1～3学年は平均2日に1回以上、第4～6学年は平均1日1回以上にする。	B			・現時点で90%以上の児童が、学習用タブレット端末を活用した家庭学習に取り組むことができている。 ・1年生以外はこの学年も数値目標を達成している。1年生は現時点では数回の使用に留まっているため、2学期から活用していく。	B	・タブレットを活用した家庭学習ができていていると感じている。 ・学校でも活用していると感じる。					
	・基本の確実な習得、家庭学習習慣の定着に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・補習教室（外部委託、学校独自）やミライシード、東京ベリックドリル等を活用し、学習の基礎基本の定着を図る。年間を通して東京ベリックドリルに取り組む。 ・よむYOMUワークシートを活用する。	・東京ベリックドリル診断テストの誤答数の減少児童を80%以上にする。5年生においては、誤答数の減少児童を90%以上にする。 ・各ワークテストの知識技能のクラス平均を80%以上にする。	C			・4月と7月の東京ベリックドリル診断テストを比較すると、誤答数の減少児童は35%であるため、活用機会を増やしていく。 ・各ワークテストの知識技能のクラス平均を80%には達していない。 ・よむYOMUワークシートは毎週活用している。	C	・基本的な学力については、もう少しがたくとよい。 ・よむYOMUワークシートも活用されている。					
	・読書科の更なる充実	・読書科や各教科、総合的な学習の時間において「調べる」「まとめる」「発表する」学習活動を通じた「調べる学習」を取り入れる。 ・第5学年を対象として、「江戸川っ子 読書科コンクール」に向けた作品作りに取り組む。 ・調べたことを発表し合う、学習の成果発表を行う。 ・調べた学習コンクールへの参加を児童に呼び掛ける。 ・区立図書館司書と連携を図りながら、学校図書館を充実させる。	・全学年が「調べる」「まとめる」「発表する」学習活動を通して、「調べる学習」のまともな作品を2作品以上作る。 ・第5学年全員が「江戸川っ子 読書科コンクール」に向けた作品作りに取り組む。 ・3学期に、発表する対象を定めた、学習の成果発表を行う。 ・全校児童の15%以上の児童が調べる学習コンクールに作品を出品する。	C			・各学年において、「調べる」「まとめる」「発表する」学習活動を通して、「調べる学習」のまともな作品を1作品以上作っている。 ・調べた学習コンクールに出品するよう呼びかけ、指導する機会を設けたが、出品は15%には至っていない。	C	・「調べる」「まとめる」「発表する」学習活動については、1月の学習の成果発表会で発表される。 ・学校図書館は、活用されていると感じる。					
体力の向上	・運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	・本校オリジナルの準備運動「篠二エクササイズ」に全学年で取り組み、体力を向上させる。 ・毎週水曜日中休みを「ぐんぐん水曜日」と設定し、学級や学年で運動遊びに取り組む。 ・競技の専門家を招いた体育科の学習を計画して実施する。	・体力テストにおいて、4つ以上の項目で、江戸川区Tスコアを超える。（全学年のTスコア平均値） ・「ぐんぐん水曜日」の際に、怪我や体調不良の児童を除く全員が学級や学年で設定した運動遊びに取り組む。 ・競技の専門家を招いた体育科の学習を実施する。	C			・「ぐんぐん水曜日」の際に、怪我や体調不良の児童を除く全員が学級や学年で設定した運動遊びに取り組んでいる。 ・競技の専門家を招いた体育科の学習を計画している。	B	・体力向上に向けて、様々な取り組みを行っていると感じる。					
実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・指導上配慮を要する児童の情報交換を行う。 ・配慮を要する児童に対する対応等を、共有ファイルサーバーに保存し、全教職員がいつでも閲覧できるようにして、配慮を要する児童について全教職員に周知する。	・指導上配慮を要する児童の情報交換を全教職員で毎月1回行う。 ・家庭や児童相談所等の関係諸機関、スクールカウンセラーと連携を図りながら、不登校傾向にある児童の出席回数、教室に入れる頻度を増加させる。 ・巡回指導にかかる児童の個別指導計画、配慮を要する児童に対する共有シートを作成し、全教職員がその内容を周知し、児童一人一人に合った対応をする。	B			・指導上配慮を要する児童の情報交換を全教職員で毎月1回行っている。 ・関係諸機関、スクールカウンセラーと連携を図っているが、不登校傾向にある児童の出席回数の増加には至っていない。 ・巡回指導にかかる児童の個別指導計画、配慮を要する児童に対する共有シートを作成した。	B	・児童相談所等の機関や、スクールカウンセラーなどが活用されている。					
	・エンカレッジルームの活用促進	・特別支援教育に関するOJT研修を行い、ユニバーサルデザインに即した環境づくり、授業展開に努める。	・巡回指導教諭とスクールカウンセラーによるOJT研修を全2回実施し、配慮を要する児童への対応の仕方やユニバーサルデザインに即した環境づくり、授業展開を全教職員で実施する。	B			・巡回指導教諭とスクールカウンセラーによるOJT研修を1回実施し、配慮を要する児童への対応の仕方やユニバーサルデザインに即した環境づくりなどについて学んだ。2学期にもう一度実施する予定である。	B	・エンカレッジルームを活用した授業が行われていると感じる。					

